




サージカルマスクの着脱についての注意喚起ポスター

実施日：平成25年11月27日（水）



指導員コメント

-  既存の感染対策ネットワークのホームページ上に掲載している資料等から引用して、サージカルマスクの使用目的や正しい着脱方法等をイラストや写真をポスターにして掲示しています。誤った使用方法（鼻が出てマスク・あごマスク・腕マスクなど）も記載し、正しい着用についての理解を促しています。
-  一方で、院内研修の際に正しい知識の普及に努めています。
-  研修ではクイズ形式で学べるよう工夫をしたり、病院長先生が個人防護具の（PPE）の着脱を実演することもあります。知識が不足していると、忙しい時にPPEの着脱が正しく出来なくなったりします。正しい知識を身につけることで、忙しい時でも正しく着脱が出来るようになります。耐性菌の水平伝播防止につながります。

スポンジ交換と乾燥

実施日：平成25年11月27日（水）



指導員コメント

- 🔪 スポンジは交換頻度を決めて、定期的に交換をしています。スポンジは、はさむタイプの物を利用して乾燥させています。スポンジ台に置くと、スポンジに置いた部分が乾燥しにくくなります。その為、はさむタイプの物を利用して吊るしたりもしています。
- 🔪 スポンジには、使用開始日と用途が書いてあります。

擦式アルコール製剤の使用量の確認

実施日：平成25年11月27日（水）



指導員コメント

✎ 擦式アルコール製剤の使用量を毎日、各自が勤務終了時に測定しています。個人で携帯する擦式アルコール製剤の使用量を確認しています。当院病院では擦式アルコール製剤を使用する際に、ポシエットを利用しての携帯はしていません。ポシエットを使用する際は、ポシエットの管理と運用方法（どこで誰が管理するか・交換頻度・交換したことを誰が確認するのか・感染症患者の病室に入室する際はどのようにするのかなど）を決めてからでないと水平伝播の原因になると考えている為です。その為、ペットボトルホルダーを使用して擦式アルコール製剤を携帯している人もいます。擦式アルコール製剤のボトルに油性マジックで線を引くとともに、確認シートに記入するようになっています。目標は、擦式アルコール製剤を一日一患者あたり24ml以上使用することです。

個人の使用量を測定することで、意識付けにつながっています。最終目標は、意識付けが習慣化することにあります。言われなくても手を洗う、自然と手を洗うことが身に付くことを最終目標としています。

ナースステーションの手洗い場

実施日：平成25年11月27日（水）



指導員コメント

- 🔪 蛇口は自動水栓になっており、手を洗った後にハンドルに触れることがなく、清潔を保てます。
- 🔪 ペーパータオルは、下に引き出すタイプのペーパーホルダーに入れて使用しています。ペーパータオルをじゃか置きすると、手洗い後の濡れた手のしずくがきれいなペーパータオルに落ちてしまいます。次に手洗いをした人が、そのペーパータオルで手を拭いてしまうと、手が汚染されて手洗いをした意味がなくなってしまいます。
- 🔪 洗面台には鏡がありません。鏡があると、つつい髪や顔に触れてしまい、手洗いの意味がなくなってしまいます。人の手が感染を拡げる最も大きな原因となります。有効な手洗いが出来るよう鏡は外してあります。

パソコン台に擦式アルコール製剤を配置

実施日：平成25年11月27日（水）



指導員コメント

📌 ナースステーション等に配置してあるパソコンのマウス、キーボードや手すり等は高頻度接触面（人の手がよく触れるところ）です。多くの人の手がよく触れるところは、細菌やウイルスを伝播させてしまう可能性があります。擦式アルコール製剤を常時配置しておき、手指衛生が保てる環境づくりに努めています。また、パソコンに触れる前に擦式アルコール製剤による手指消毒をするよう注意喚起のテープも貼ってあります。